

郵便



知新聞

第十三號

明治壬申八月

新貨三錢



東京横山町三丁目

太田金右衛門

九例

遠近の人民互に性情よく相通し事理よくお達するは新聞紙の如く
あり故に西洋諸國苟も文のな名あるは地を以て其の必を新聞紙局に設
ありて國內國外と論せざれば九百の事務を網羅し保て奇事異聞瑣
語常談を米用し以て日小刊し月小刊して傳布するは幾んど家
喻戸曉し小説の概あれは國人甚だあれと便とせざるも今爰小郵便
此新聞を刊行するも廣く遠近の子成我せ大ひは内か此情を通し善
古今に變と知りあいて世小裨益あるは成致するあり蓋し龍水の
氷成見て天下此寒を知りれば此小冊子と云るもの亦當今子成の
一斑を窺ふべし

郵便報知新聞第十三號 明治五年申八月

○宇都宮縣ヨリ説教ノ儀ニ付教部省工伺書大意
今般大教正專修寺使僧推訓導延命寺義宗松原寺大寐
當管下芳賀郡高田村專修寺工出張説教開席追々聴衆
集會致し候ニ付布教傳道書旨趣承継候處邪僻妖妄ノ
説ヲ唱へ敬神愛國等ノ三大旨ニ悖ル而已ナラス却テ
人心ヲ蠱惑シ風俗ヲ敗乱シ終ニ至ラサル所ナキニ及
ヒ可申候間篤ト御檢査ノ上如斯ノ説教御差止相成候
様仕度此段奉伺候云々

長口竹間 第一二帝

○朽木縣より報知

下野國都賀郡日光山ハ開闢の末女人結界の靈場あり
 然るに方今所維新の折柄女人結界の許ありしより
 追々登山の者群をあり日々詣人蟻の集を極する如
 く最も冷き強場にてハ怪人稀あるべし中宮司より溪路
 湖邊三里と種て水原の温泉ありよき疾痛を愈しむる
 といへども往古清淨の男子ありてハ到るに能はず暑
 中浴するにせ三四拾人よ未満し今將に峻嶽を穿ち
 牛馬の通路までも開け四方の男女忌服を論せしは復
 せり尚六月より七月下旬迄ハ準備のりせ千人お及べ

り上毛草津の温泉も亞ぐべしと衆人之を云ふ

○昔より聖賢の言をれしはに度量衡ハ諸物の準を
 取るべき肝要のり此をば最も嚴密に其尺縮むるべ
 きるあるに我邦もては唯秤を秤たるありたれども是
 大原なる尺に至りて應元も無く勝手次第小尺様候
 類の尺度を製し嘗て尺縮の法も無くゆへ是より生ず
 る弊害も更あり國の政典云ふもつらも是をこくあり
 一々以て度量衡ハ兩締の規則お立ち絶て紛雜の種
 類を禁し原基あるべき三種の尺度并秤秤をも以て
 めお取し且追々世界普通の製するて以て改正しもお取

○岡山縣より報知奉子建白書大意

風俗の厚薄ハ天下の治乱ニ關シ人民の勤惰ハ國家の
強弱ニ係ル是古今の通義ナリ

廟堂の諸公奮發勉勵 神州として美國ニ冠たりしめ

皇威を海外ニ輝くんと欲す是臣等共々躍舞する所を

り退て考ふべき是を行ふの本ハ蓋し風俗を厚するに

人民として勤めしむるに在り臣等忝くも地方の官に

任ず因て爰内の風俗を厚し人々をして其勤むる所を

知り以て報國の志を勵し文明開化の域ニ至らしめんと

欲す然るに地方の弊害利を射るの農高等劇場と處々

に及び酒樓に妓女を畜し頗り繁昌を蒙り以て開化

の効とあす此に於て子弟の輩遊戯に趨り輕薄諛諛の

風惰慢嬉佚の俗競起り意氣揚々として實業を修する

者少く寡小之を見ず不忍ず願ふハ此輩をして駸々乎

として文學に向しめ忠孝節義を辨し才を開き智を磨

き真の文明開化に至り國家他日の用小供せんと欲す

如はすれば神州を美國に冠らしめ 皇威を海外に

輝すの本を養ふに非ずや 臣等同廳官員と議し學校の

教を重んじ頂白又多社を各郡に結び務て其弊害を除

うんと欲す臣等管内の子を以て推して思ふに他の地方に於ても恐らく又前條の弊害ありん願ふに風俗の厚薄人民の勲惰ハ治乱強弱ニ關係するの意を論じ娼妓遊戯等怠惰を誘導し風教を障碍するの道徳を禁絶せん事を區々の微衷敢て之を諸公の閣下へ白云々

備前國岡山ハ中國才一の豊饒繁華の地ナリ士民とも古來遊惰の癖あり今その泰多新莊厚信等六七等お仕杉山某等深く之を慨して其舊弊を一洗せしめ

徳義文明の俗とあさんと欲す其志誠々嘉す

○今叙小海乃礼繩表より馴鹿二匹熊二匹狐三匹虎猫

一匹島鼠一疋三足の犬一匹鷲鷲島梟等鳥獸を

外種々の奇器を呈送ししに南月十八日開拓使へ奉呈せり

○陸軍省ヨリ七十二縣エ御達書略

各縣管下中銃砲買賣免許ノ商人可賣捌火藥買込之儀ニ付差問之向モ有之候ハ、諸鎮基本分營ニ於テ不用ノ品賣拂為致候間賣得願高取調各縣廳添書ヲ以其所管之本營或ハ分營へ可願出候此旨相達候也

○京都府於て越前の敷賀まで蒸氣車の鐵道と修らん

として都下の町人より相談ありしに、またちよちよ七十万圓の元金を備へたりしその奮發實に驚くべしとあるに、おつき参事植村某は、高島嘉右衛門奥州青森まで鐵道と敷の方法を立て政府へ願出たり

○若松知事より報告

岩代の國令津若松ハ高山四方より、だちちて、津東も亦り、ごころけだめのけうく世の人の出入もすれりして他國の人と接するもかきよつれ人の心ひらき、頑くのみありゆき開化の際ともあつて益々衰微よりし

と、早く頑固の民を教養して身目とひらき、世智とあつれざる極く開化の基と立んと、戸長副戸長皆奮發して若松市中三十余戸の者あつて、會議し本月八日、富富相當に割令て毎月金百二十圓つと、縣廳へ納め、是を以て市中へ小学校出たり、たての入費の内へさし加へ下ッ下ッ細民に至るまで筆算の道と、なつひ追々、諸工藝の學術ともあびて、開明の域へ入りし、あんと、縣廳へ願出し、と、林妙の願筋なり、として即日許可ありしとあり

○神戸より報告

攝州西宮兵庫の間小大石村と云ふ交ありは還脇の小
藪中より毎夜引續き盜賊兩三人ふまゝに旅人を劫
しけりある夜郵便継立の人足擔ひつゝの行李と奪
取んと欲してそ方所持の行李中おハれ何ある物に
至りし問ふ人足大に驚き郵便止状ありと答ふ賊みれ
と聞て云るや郵便の行李あまはせ結ハれるまじと
て直ふられつゝ去りありとを

○新吉永町年毎く八月の初より毎夜路劇と稱し廓中
の藝者各新調と競い種々の所信とあり此里の壯觀と
せり今年新開港元此代書を支菅野序橋等結戀廓郵便

と題し郵便の節より書状の文意を男女の少年と変し一
紙の狂言とあせりとは是等抄録し流し風習ありが則
今日新の域に進み愚俗の捨民均しく冥明を慕ふよふ
そ

○上海新聞抄譯

上海ハ漢土東隅の一小縣にて京城と遠りれども又繁
華の地あり長崎より海上凡二百五十里なり一慶應
のりり岸吟香をとりてうれ地くもつて商事を管
り引つゞきて日本の士商わたりありむきま
開店して東洋の物貨をうりさむ者多し近頃美濃の

人して安田老山といふ医者夫婦ありとも上海とて
う老北門外の同茂棧といふ商家に寓居して書画詩文
を以て大小行りれ支那人その揮毫を乞ふ者日々
門くみてうそれ妻紅楓女史もみの、あ人して梁星巖
の妻紅蘭の門人あれバ書画ともよ妙もありうバ彼
の比めてその名一時とらふひいが悔づー今年二十六
歳ゆて七月二十三日むあーく吳淞江頭の露とて元
うもあらの國當時の文人墨士あめく詩文を作て之
を悼しみうう近きあううある龍華寺の九層塔の傍
に墓地をりしめて葬戎とらあめかひ大理石の碑をた

てたり銘ハ浙江の胡公壽序文ハ江南の王道といふ人
の作あり嗚呼年少の一女子うして名を海外に輝し死
して人々愛惜せしめ、ハ全く文雅の徳カふびや僅か
支那國の細文をまびしたくわくの如しうして又明か
る西洋各國の學術を練磨せむ我國の光輝を増するの
うむうううう

○勢州松坂の城ハむー古川織部蒲生氏郷などの居
しあまて随分よき城なりしを徳川氏の代に紀州若山
家にあてられりるう若山より城代をわきて守り
せりう近頃廢藩のころたりうなる番人もありうり

るよや心は連のりねどもありて殿中よむりより傳
りたる宝物器財あざりけり此等みりてよハ襦の
ひきて六寸むりりし金三セなるをも引まぐり又疊の
表までもとぞりりたどりけれハ縣廳より嚴しく礼さ
れりるよちのさありりなる甚目村の紳吉川某とい
ふものを頭として同類ありそ五十人をかりもありと
ぞむりりりり伊勢子正直とこそ云ひ傳くたれ今ハい
せ盗人ともいりりり

報知新聞第十三號終

今般郵便報知新聞刊行の旨趣ハ遠く隔る國ハ其物候を互におし合せり也且雨下
小なりす細太る實多地ハ相知りぬんと依るを殊多奇談ハ至名申善りの諸君
暴徒ハ捕縛機械産物の孔若即盤絲織物漆器陶器米穀茶葉其他の諸品を造
耕作の名寡蠹凶害雷雨水火の凶災難を暖氣候は連ひりて少く憂り多しを
皆夫に著記して聊支稔虚飾を加へる時ハ哉載て是を讀み發見人及ひ賣
弘所小送り紙一給ハん事或希ふ

一郵便報知新聞一冊價新貨三錢毎月五号宛出ぬ
當時發見号ヨリ先廿冊分引發見向き一割引

同四十冊分ハ一割半引

一五年分刊清の向ハ二割引

右之通郵費お定まり金井郵便局は候去毎号發見順序と違ひ郵便ヲ以ては届可申後

東京横山町三丁目

發見人

太田金右衛門

